

Photo Column

フォトコラム・自然観察



山中の潜水夫

泉原 猛

「カワガラス」

全身が黒褐色のため「河鳥」と名があるが、カラスの仲間ではない。翼と足を使って水中を泳いだり川底を歩いたりして、主に水生昆虫を餌としている。山間地の岩や石の多い急流や溪流に住み、「ビツ・ビツ」と鳴きながら、川の上を低く直線的に飛ぶ。堰堤や滝の裏側などにコケ類を用いて巣を作る。

水中で餌を捕る鳥にしては、カエルやカワウソなどにもついている、足指の間の膜状の「水かき」がないのが不思議である。

下流部の開けた川に下りて来ることもなく、比較的山奥の狭い溪流に生息し、もっぱら水中の餌で満足している。決して空中に舞い上がって昆虫類を求めたりはしない。このような暮らしぶりを「生物の棲み分け」という。

地球上にはただ一種、その棲み分けを忘れた生き物がいるようである。

いずはら・たけし 一九三五年東宇和郡土居村（現城川町）生まれ。愛媛県環境マイスター、松山市エコリーダー。文芸誌『原点』同人。子供たちの環境教育に関わる者の一人として、大人の「悪行の結果」である地球環境悪化を、事細かく説くのはお門違いではないのか、と思うこの頃。

（写真は、一九八六年十一月六日、川内町南方にて）